

# 分娩を通じて伝える 産婦人科の“魅力”

— POP-K から発信 —

## REPORT

### ■ 概要 — 近畿産婦人科実習セミナー（POP-K：Plus One Project in KinKi） —

POP-K は、近畿産科婦人科学会後援のもと初期臨床研修医に実習を通じて産科婦人科の魅力を伝えることを目的としています。

本セミナーは、分娩/会陰縫合、超音波、腹腔鏡、産科救急のプログラムで構成され、参加者は10名程度のグループに分かれて手技を学びます。

分娩プログラムでは、第Ⅰ期の内診が“リアル”に体験できるシミュレータを活用し、第Ⅲ期までを学んでもらいました。



### ■ 指導者の想い



#### 佐藤 華子

近畿大学医学部  
産科婦人科学教室

これまで活用していた分娩モデルでは、子宮口の開大・展退など第Ⅰ期についての指導が困難でした。

今回活用した分娩モデルは、胎児回旋、内診、娩出までを連続的に指導・体験することが可能です。そのため、分娩を通じて参加者へ産婦人科の魅力を伝えることができたと感じています。

分娩プログラムを担当した指導医からも「限られた時間のなかでリアルな分娩実習が展開できた」と好評です。

# 胎児操作と分娩を POINT 同時に指導



参加者・・・

- 胎児操作（回旋の理解）
- 分娩（I-III期の習得）

使用製品：分娩シミュレータアドバンスド

## ■ 実習内容



胎児回旋の確認

シミュレータの腹部を取り外し、視覚的に胎児回旋を学ぶ



分娩第I期の内診

子宮口の開大・展退をリアルタイムに内診



胎児・胎盤の娩出

正常分娩・異常分娩の体験

## ■ 参加者 / 指導者の声

- 胎児回旋の操作を体験することで、理解が深まった。（参加者）
- 子宮口開大・展退について鮮明なイメージを掴むことができた。（参加者）
- トレーニングが困難である異常分娩時の操作が可能のため有用です。（指導者）